

詳しくは、こちらから！

【こども向け】啓発動画



【おとな向け】啓発動画



【こども向け】解説動画



【おとな向け】解説動画



【自治体・実践者向け】解説動画



こどもみんなが
こども家庭庁

〒100-6090 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング14階、20階、21階、22階 TEL.03-6771-8030





どんな失敗も
しても否定
されない場所

偏見を持たず
決めつけないで
ほしい。

自分の夢を
押し付けなくて

「してあげる」
という意識を
もってほしくない



おとなのみなさんへ

子どもからおねがいしたいこと

何もしなくても
過ごせる
場所が欲しい

自分たちが望む
答えに誘導しないでほしい

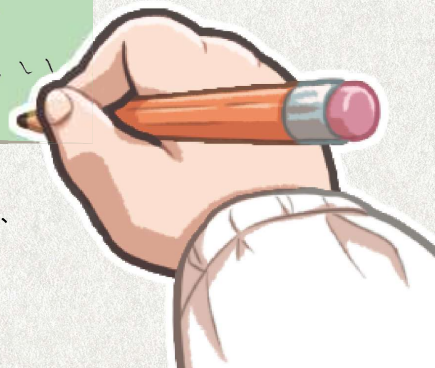
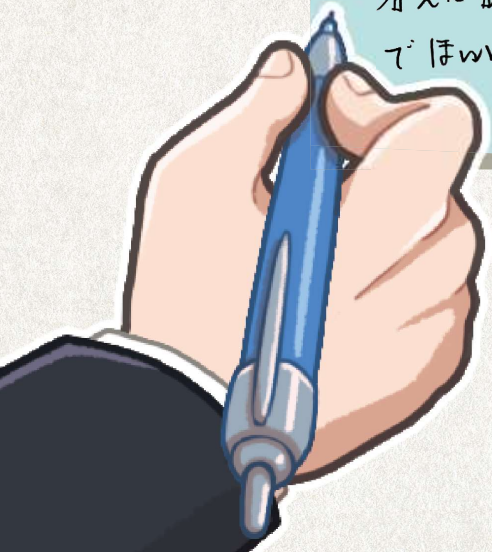
とにかく
はなをきい
てほしい

「何かをしてあげよう」
ではなく、
「受け入れよう」として
ほしい

しんじて
まかせて
ほしい

やりたいことを
応援してほしい

出典: いけんひろば ～子ども・若者の居場所づくりの取組について、
どんな伝え方をすれば良いと思いますか?～(令和6年9月開催)で
いただいた子どもの声から抜粋



もくじ

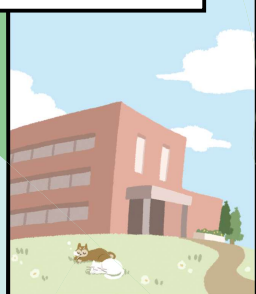


教えて、イバッション!

その1

こどもの居場所

とある街の児童館



こどもの居場所とは

居場所になるかは、こども・若者本人が決める

こども・若者本人にとって居心地が良いと思えるものであれば、どんな場所・時間・人との関係性であっても、居場所となり得ます。どこを居場所にするかを、おとなが指定することはできません。



居場所だと感じる？感じない？



学校

出典：いけんひろば ～あなたが思う「居場所」は？～（令和5年7月開催）
報告資料より抜粋



家

家族との空間だから本音が出せる
（中高生）

親がイライラしていると、私にイライラが刺さっていつくなる
（小学生～高校生）

クラスメイト、先輩、後輩、先生と話すのが好き
（中高生）

苦手な人が同じクラスにいると「居場所」だと感じない
（中高生）



SNS

学校では周りと趣味があわないが、SNSでは同じアニメやゲームの趣味の子と話げうため
（大学生・社会人）

SNSは匿名だから言えないことも言えてしまう
（小学生～高校生）



家・学校・SNSなどがこども・若者の居場所になるかどうかは、その場を**どんな人と共有しているか**が大きく影響します。どれだけ物理的に充実した空間であっても、すべてのこども・若者が居場所とを感じる場となることは難しいのです。

教えて、イバシオン！ その2

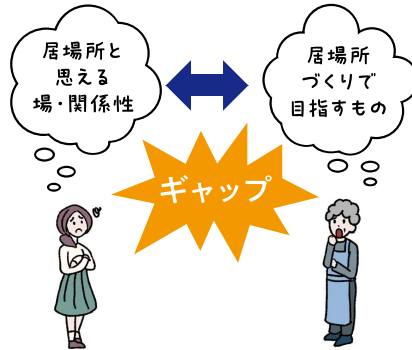
こどもの居場所ってなに？



こどもの居場所づくりとは

こども・若者の「居たい」「行きたい」「やってみたい」
場をつくること

居場所になるかどうかは本人が判断することですが、「居場所づくり」はおとなをはじめとした第三者が主体となることが多いです。第三者の視点でつくられる場は、こども・若者が求める居場所のあり方とのギャップが生じやすいことに注意が必要であり、そのギャップを埋めることが求められます。



ギャップを埋めるためには、こども・若者の声を聴き、「居たい」「行きたい」「やってみたい」と思える場になるよう意識して取り組む必要があります。

「行きたい」

- 身近にあること
- 行ききかけがあること
- 自分を受け入れてくれる誰かがいること など



出典：こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書概要
(令和5年3月)より抜粋

「居たい」

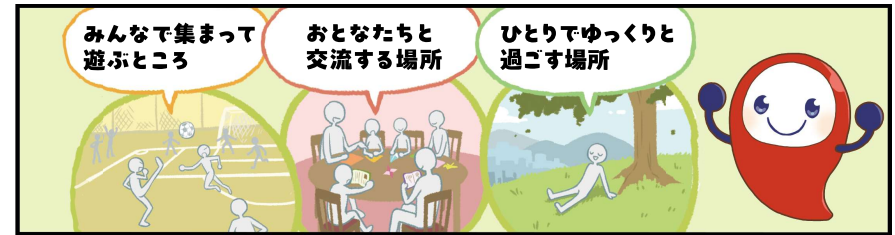
- 居ることの意味を問われないこと
- 誰かとつながることができること
- 安全・安心な場であること など

「やってみたい」

- 自分の意見を言える、聴いてもらえること
- 自分の役割があること
- あこがれを抱ける人がいること など

教えて、イバシオン! その3

こどもの居場所づくりってなに?



こどもの居場所をつくるために

こどもの声を聴くことが重要

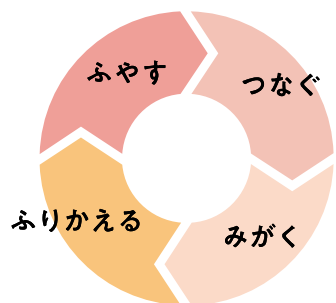
こども・若者は全ての想いを言葉で表現するわけではありません。表情やジェスチャー、ときには無視や悪態などの攻撃的な態度の中に想いが表れることもあります。本人が自分の想いに無自覚であることもあります。

こども・若者の声を「聴く」とは、そうしたこども・若者の想いを「受け止め、読み解いていくこと」です。



地域に多種・多様なこどもの居場所を

どれだけ充実した空間でも、一つの間がすべてのこども・若者の居場所となることは不可能です。居場所づくりによって、地域の中に多種・多様な場が存在していることが、障害の有無や国籍の違いなどに左右されることなく、すべてのこども・若者が居場所を見つけることのできる社会を実現することにつながります。



すべてのこども・若者が居場所を見つけることができる社会の実現のためには、**【ふやす】【つなぐ】【みかく】【ふりかえる】**の4つの視点を踏まえた取り組みを地域社会で推進し、多くの居場所がある環境にしていく必要があります。

居場所を **ふやす** ～多様なこどもの居場所がつけられる～

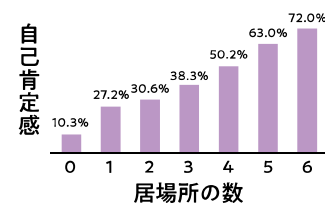
【ふやす】では、こども・若者が身近な地域で居場所を見つけることができるよう、居場所づくりに多様に取り組むことができる環境整備を進めます。そのためには、その地域の実情を知り、どのような場が必要なのか、そのために活用できる資源はあるのかなどの情報を共有することが有効です。



“ふやす”ためにできること（例）

	POINT 1 地域にあるものを使い、 より充実した居場所の実現を	POINT 2 居場所づくりを 新しく始めやすいように
地域が 	実践者に対する、 地域資源の情報提供	居場所づくりの取り組みを 見守る、応援する
実践者が 	既存の地域資源を把握し、 適切に活用	新しく始める人への ノウハウの共有
自治体が 	こども・若者のニーズや 地域資源などの調査	立ち上げ支援、中間支援 団体を通しての支援

居場所は1つで良い？



居場所と思える場を複数持つこども・若者の方が、自己肯定感などが高くなるという調査結果も。地域で多種・多様に取り組むことが重要です。

出典：内閣府「子供・若者白書（令和4年版）」

居場所を つなぐ ～子どもが居場所につながる～

【つなぐ】では、子ども・若者が居場所につながりやすい環境整備を進めます。居場所になり得る場があったとしても、子ども・若者がそこにつながるができなければ意味がありません。そのため、地域にどのような場があるかを子ども・若者に知ってもらうとともに、アクセスしやすい環境を整える必要があります。



“つなぐ”ためにできること（例）

	POINT 1 子ども・若者が居場所を見つけやすくするために	POINT 2 子ども・若者が利用する際のハードルを下げるために
地域が 	地域の取り組みを知り、あちこちで話題に出す	身近な子ども・若者と情報共有する
実践者が 	子ども・若者に知ってもらうための広報啓発	アウトリーチやオンラインの実施など
自治体が 	居場所づくりに関するマップの作製など	社会資源につながりにくい人への対応など

オンラインの居場所の可能性

オンラインの居場所には、子ども・若者がどこに住んでいても同じようにアクセスできるという特徴があります。バーチャル空間の活用など、今後の技術の進歩に合わせ、オンラインの可能性はさらに広がっていくでしょう。



居場所を みがく ～子どもにとってより良い居場所となる～

【みがく】では、子ども・若者の居場所であり続けるために、居場所づくりの取り組みを改善し続けます。一度居場所となった場でも、環境の変化や子ども・若者自身の成長・発達などにより、居場所と認識されなくなることもあります。子ども・若者の声を聴きながら、改善し続ける必要があります。



“みがく”ためにできること（例）

	POINT 1 子どもと一緒に「みがく」	POINT 2 おとな同士で「みがく」
地域が 	子ども・若者に関心を持ち、声を聴く	実践者を含め、地域住民同士で交流する
実践者が 	子ども・若者の声を基に取り組みを見直し続ける	実践者同士でつながり、意見交換をする
自治体が 	子ども・若者の声を施策に反映する機会を設ける	地域全体の環境整備のための施策を推進する

居場所を ふりかえる ～子どもの居場所づくりを検証する～

【ふりかえる】では居場所づくりの取り組みを検証し、さらなる発展につなげていきます。ただし、検証の際にも各地の取り組みの多様性・創造性を損なうことがないよう注意が必要です。



居場所づくりを支える人たち



地域に目を向けて

地域全体で取り組む

【ふやす・つなぐ・みがく・ふりかえる】を効果的に進めていくためには、地域全体で居場所づくりに取り組んでいくことが不可欠です。実践に関わる人など、一部の人だけで取り組もうとしても、その効果は限定的なものになるでしょう。多くの人に知ってもらい、応援してもらえるようになることが重要です。



ふやす

多くの人が関心を持つことで、取り組みを始め／続けやすくなります

つなぐ

話題にすることで、居場所づくりの情報は口コミで広がります

みがく

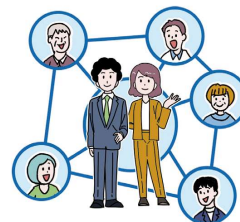
みんなで子ども・若者の声を聴くことが、居場所をみがきます

ふりかえる

改善点や、次の課題について、みんなで意見を出し合います

地域の人々をつなぐコーディネーター

地域全体で子ども・若者の居場所づくりに取り組むために、【ふやす・つなぐ・みがく・ふりかえる】の観点から、地域の実情を把握し、居場所づくりを進める「子どもの居場所づくりコーディネーター」の配置を推進しています。



「子どもの居場所づくりコーディネーター」の業務(例)

- ①居場所に関する地域資源の把握
- ②居場所や関係機関などのネットワーク形成
- ③その他、地域の実情に応じて行う業務

居場所づくりの分類

居場所づくりの取り組みは、子ども・若者への関わり方によって、以下の2つに大きく区分できます。

ユニバーサル・アプローチ

すべての子ども・若者を対象として交流の機会などを設ける

ターゲット・アプローチ

個別のニーズを抱える子ども・若者へのきめ細やかな対応を行う

ユニバーサル	混在型	ターゲット
児童館、公民館、 図書館、公園、 子ども会、校庭、 プレーパーク など	フリースペース、 子ども食堂、校内 カフェ、学習・生活 支援の場 など	放課後等デイサービ ス、若者シェルター、 児童育成支援拠点 事業 など



どの居場所でも子ども・若者が思い思いに過ごしています。のんびり過ごす場も大切です。

キャンプなど、一緒に様々な体験をすることが、仲間との関係性を居場所にしていきます。



夜の居場所がないという声など、子ども・若者が抱える様々な課題に直面することも。

※写真は、「子どもの居場所づくり支援体制強化事業」をご活用いただいた自治体の報告書から抜粋しています。

災害発生時は、それまで居場所としていた場が失われやすいだけでなく、おとなに余裕がなくなるため、普段以上に子ども・若者の声を聴きにくくなります。また、発災後に新しく取り組みを始めるのは難しい環境でもあるため、普段からの積み重ねが重要です。



能登半島地震への対応を通して

令和6年1月1日に発災した能登半島地震に対し、「被災したこどもの居場所づくり支援」として、民間団体を対象とした支援枠組みを設けました。迅速な対応として評価する声がある一方で、行政と民間団体が別々に動くことも多く、発災時に連携して取り組むためにも普段からの信頼関係の構築が重要であると指摘されています。



被災地の子ども・若者の様子

学校も避難所になり、グラウンドも仮設住宅が建ち、子どもたちはおとなしく過ごすことが当たり前になりつつある

大きな声を出したり、自分のやりたいことをやったりする環境が、避難後はなかなか持てなかった



地震後、家の中で過ごすこと、家族だけで過ごすことが多くなった

※「被災したこどもの居場所づくり支援」をご活用いただいた団体から報告された、被災地のこどもの様子について保護者の皆様から寄せられた声です。

こどもの居場所づくりを通じて 目指したい未来

こども・若者自身にとって、居場所づくりの取り組みが多種・多様に展開することはとても重要です。居場所を見つけることで、信頼できる他者と出会ったり、自分のペースでやりたいことに取り組む機会を持ったりすることが、将来への希望を持つことにつながります。

おとなや地域社会にとっても、居場所づくりの取り組みは重要です。居場所となった場を拠点としてこども・若者が地域における新たな交流の機会をつくっていく場合もあり、こども・若者とともにより良い地域づくりを推進することにつながります。



こどもと一緒に誰もが笑顔でいられる社会の実現へ

居場所の主人公はこども・若者自身です。しかし、おとなの存在も決して脇役にとどまるものではありません。こども・若者とともに、こども・若者を含めて、誰もが笑顔でいられる地域・まちをつくっていく取り組みが、居場所づくりなのです。

居場所づくりを広めていくために

居場所づくりについて多くの人に知っていたき、地域の中で多様に取り組んでもらうために何ができるのか、まだいろいろと試しながら進めている段階です。こども家庭庁では、居場所づくりに関連する最新の情報を公開しています。こちらからぜひご覧ください。

こども家庭庁
居場所づくりページ



<https://www.cfa.go.jp/policies/ibasho>

教えて、イバシオン! その5

「居たい」「行きたい」「やってみたい」

